

北 どころ

第75号 2022年6月1日（毎月1日発行）

芸備線ストロール⑦ 小奴可駅

「古城址の巨桜と赤瓦の家並み」

5月16日月曜日、早朝の6時過ぎには車で家を出た。快晴、5月に入って雨の日が多かったため、それだけでテンションが上がる。道後山駅の前に車を停めて、6時56分発の新見行きに乗った。次の新見行きは14時52分、すぐに夕方になってしまい、のんびりストロール（散策）というわけにはいかない、がんばって早出した。

乗客はわたし一人で貸し切り状態。寂しいというよりも、豪華な気分になる。芸備線は、標高624メートルの道後山駅が一番高所で、同547メートルの小奴可駅に下る。山間の万緑のトンネルを抜けて平地に出ると、水を湛えた田んぼが見えてくる。蒸気機関車を連想させる汽

笛が何度か鳴らされた。降車するときに運転士さんに尋ねると、「遮断機のない踏切を通過するときの安全確認のためです」。イノシシなどの動物の侵入を牽制する効果もあるらしい。7時過ぎに小奴可駅に到着。昭和九年（1934年）に建てられたという駅舎は健在で（開業は昭和10年）、早朝なのに出入札窓口に係員がいて驚いた。「道後タクシー」の社員の方で、昭和58年に無人駅になったときに営業委託を受けて、駅舎の半分が道後タクシーの



「要害桜」は東城三大桜の一つ。葉桜でも賞禄十分！

事務所となっている。待合室には警視庁の「重要指名手配」のポスター。懸賞金上限額600万円の凶悪犯もいて、映画の西部劇を連想してしまう。連続企業爆破事件の桐島聡の顔写真もある。1975年からの指名手配だから、半世紀近く逃亡していることになる。駅から南西方向、歩いて15分ほどの所に小高い丘がある。亀山城跡で、武田祐三氏の「芸備線」（シンセイアート）には、「奴可入道西寂の居城というところになっていきます」。「平家物語」に出てくる人物で、武田氏の解説によると、四国の伊予の河野通清父子が源頼朝の呼びかけに応じて兵を挙げ、平氏が対抗して武士団を招集。「備後からは奴可入道西寂が三〇〇余の兵を率いて軈に急行して四国に渡りました。西寂の軍勢は河野通清を討ち、軈に凱旋して祝宴中に逆襲され、捕らえられて四国で惨殺されたとあります。」

城址跡の丘に登る山道の左側が奥深い竹林で、二種類のサギが飛来する姿が見えた。ちよんどり子育て中なのか、チンパンジーの咆哮のようなけたたましい鳴き声が聞こえてくる。頂の本丸跡には祠や案



内板が立っていたが、城跡を思わせる人工物は見当たらない。孟宗竹だらうか、ふとい筍があちこちでぐんぐん伸びて、勢力圏を広げている。

城址跡を通り抜けて裏側に出ると、県指定天然記念物の「要害桜」（一頁写真下）が見えてくる。要害とは「地形が險しく守りが有利なこと」、「とりで」の意味もある。推定樹齢500年のエドヒガンの大木。花のシーズンには多くの観光客が訪れるが、今はわたしひとりです。葉桜もまたどっしりして貫禄がある。

駅前に戻って、駅舎のすぐそばにある「FOOD CENTER 近江屋」に立ち寄った。到着時にはま

だ開店していなかったのである。お目当ては小奴可名物「近江屋乃最中」、仏前用の箱入りと、おやつ用の4個パックを購入。地元産の銘菓である。

江戸時代の小奴可地方は広島藩内屈指の鉄製産地で、繁栄していたという。その名残りが、古い町並みにも見てとれる。屋根瓦に赤色が多いので、地元の人に尋ねてみた。赤瓦の割合は5割を軽く超えていて、赤瓦の軒が続いている地区もある。

「昔は、瓦を焼いている業者がおったんよ。みんなそこで瓦を買って、自分で背負って持って帰って、みんなで屋根を葺いたもんよ」

その瓦がすべて赤色だった。その

ご老人の家も赤瓦で、葺いて百年以上になるが、一度もトラブルは起きていないという。葺き替えるときも、以前と同じ赤瓦を選ぶ家が多いのだ。赤瓦という島根県西部で作られる石州瓦が有名だが、小奴可の瓦屋さんは、島根県で修行したのかも知れない。石州瓦の一番の特長は、寒さに強いことである。

町並みを抜けると、水田が広がっている。すでに田植えは終わっていて、水面に苗がきれいに並んでいる。小奴可では、国指定重要文化財の「大山供養田植」が今でも大切に継承&保存されている。4年毎に公開されていて、今年がその年に当たる。五月の最終日曜日が予定日だが、今回はコロナ禍で非公開、神事だけ執り行われるという話を関係者から聞いた。

水田地帯の向うに、大きな石像の姿が見える。臨濟宗見性寺の門前に立つ聖観音菩薩像（写真上）で、石碑に刻まれた建立の由来を読むと、施主は朝鮮半島出身者で日本名を持つ在日の方らしい。芸備線の敷設には、朝鮮人労働者の存在が推測される記録もある。「国家安寧永遠平和にして人々の安穩無事ならんことを祈願」の一文に賛同、慰霊と共に、ウクライナの平和を祈願した。

見性寺の近くには、創建が弘仁3年（813年）の奴可神社（写真下）がある。御祭神が「天照大神、国之常立神、月読命、品陀和氣命、帯中

日子命、息長帯比売命、大吉備津日子命、菅原道真」、相殿が「猿田毘古神」と掲示されている。合併や合祀を繰り返した歴史が伺われる。社殿の裏のこんもりとした鎮守の森は、荘厳な空気が満ちている。古代の神々にも、世界の平和を祈願した。

国道314号線を、道後山駅を指して登った。右手には猫山のなだらかな山稜が見える。「米俵を背おふて一日の中に三度廻り猫の真似をすれば、山中の石ごとく化して猫となる、よって山の名のつく」と言う云。」と、江戸時代の書「西備名区」の解説が「芸備線」で紹介されている。猫山には、人を食べる大猫が住んでいたという民話もある。

坂道続きに音を上げて、歩道に腰を下ろして、近江屋で購入したコロックパンを食べた。早い昼食……いや、朝食がバナナ1本だったので遅い朝食か。食後に近江屋乃最中、甘さ控えめの上品な味である。

沿道の木に山藤の蔦が絡みついて、花を咲かせている。麓の小奴可では無残に枯れていたのだが、坂道を進む毎に次第に生気を帯びて、花房の藤色が鮮やかになってくる。高度差による気温の変化を実感することができた。

道後山駅からの車の帰路、高尾の湯に立ち寄って汗を流した。先客はまだなく、一番風呂だった。これは癖になる……、予感大である。



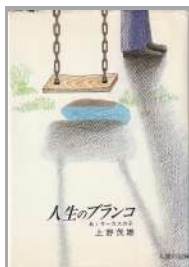
どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「人生のブランコ」

上野茂雄 著 小西印刷所

「あゝサーカスの子」の副題。古本屋をしていなければ出会えなかった本。ネットで検索しても一冊もヒットしない。おそらく自費出版、自身の体験を綴った自叙伝だろうと推測した。

サーカス団の猛獣使いとして花形だった父親が急死、母親の背に三人の幼子の生活がのしかかる。生活保護などはなかった時代である。子供たちを親戚に預けて母親は懸命に働くが、



仕送りは滞りがちで、子供たちは壮絶な虐待を受けることになる。

素人っぽさが残る文章はリアルで迫力がある。食べることが困難な時代、しかし、子供たちの目は輝いている。幸福とは何かを考えさせられた。

「インパラの朝」

中村安希 著 集英社

「ユーラシア・アフリカ大陸684日」の副題。「26歳の春が来て、私は冷蔵庫を売り飛ばした。家電製品と家具を売り払い、小さなアパートを引き払った。」そうして彼女は「汚染や疫病、腐敗した政治やテロが噂され、悪魔が寄り集う」危険地帯へと旅立つのだが、その動機がよくわからない……。

バックパッカーとして、強固な意志で、ときには傲慢に自己主張しながら、困難な状況を乗り越えて行く。入国ビザを得るために旅行仲間と偽装結婚までしている。文体は紀行文というよりも私小説。軽薄な情報が押し売りされる現在では、真実を得るためには自分の目で見るとしか……。



「おじさまと猫」

桜井海 著 スクウェア・エニックス

ペットショップに一歳になる猫が売れ残っている。エキゾチック・ショートヘア、つぶれた鼻に大きな目のぶさかわいい猫である。自分なんか気に入ってくれる人はいないといじけている。そこに、ナイスミドルのおじさま、神田冬樹が現れる。神田はその猫に一目ぼれ、家に連れ帰って「ふくまる」と名付ける。

初めて動物を飼う神田の溺愛ぶりが微笑ましい。神田は世界的な名声を博したピアニストだったが、妻を亡くしたショックでピアノが弾けなくなった。ふくまるとの触れ合いが、神田の心を癒して行く……。飼い猫あるある満載で、猫好きにはたまらない。現在9巻発行、月刊少年ガンガンに連載中。



「ぐんぐん伸びよう会」(教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

「できた」を実感した生徒は、次のステップに進みたくになります。

一斉授業ではなく、**個人別に対応**するため、一人ひとりの生徒が今やっている内容を繰り返しながらできるようになっていき、ぐんぐんと伸びていきます。

体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせくださいね。

0~3歳：4800円(週1回)。4歳~小6生：算数・国語(各5500円、週2回)。



庄原の不確かな歴史ドラマ——永江の庄から現代まで⑤

上野池は庄原発展の引き金か

——近在では何処が豊かだったのか

音谷健郎

庄原の市街地より遥かに上に、大きな溜池があります。いうまでもなく、名前の通り上野池です。市街地の人たちは大雨の時、決壊を心配したことはないのだろうか。市民防災マップには、ほぼ真下に当たる、低い位置の市役所も避難場所の一つに指定されています。どうやら、町民と平和共存してき

たような奇妙なこの池は、どんな歴史を秘めているのでしょうか。市街地から上野池に至ると、池を見渡すように、由来を記した2層大の石碑があります。

一枚岩なのにまん中あたりに大きくひびが入っています。安永9（1780）年に、大池の完成を記念して建てられたものです。刻字は深く

丁寧彫られているのですが、漢文調なので読めません。

幸い郷土史家・故増原卓三氏の「上野池」（「ふるさと庄原」1990年刊、発行・庄原市郷土史研究会）が、なんと口語訳にして解説しています。これを手がかりに碑文を読み進めて見ます。

要約すると、「上野沼は慶安承応年間（1648～1654）に作り始め、延宝3（1675）年に堤を高く、元禄4（1691）年に堤をさらに高く沼を深く広大にした。正徳3（1713）年、石を彫って樋を通す。いま安永9（1780）年、重ねて堤を築き大いに水を満たし、暗渠（ホ

リコ）は120畝に及び、新在家に至った。畑のないところを畝田となし、村繁栄の基を窮め、その功は実に大きい」とあります。

庄原のいわれを伝える書『永江庄から庄原町へ』（1949年刊）によると、このホリコで、西方面の新在家の壱田12町余（約12畝）、田48町、池の周囲20余町を潤したと記しています。

小山の胴ッ腹をくりぬいたこのホリコには、私（音谷）は少年の頃に「コウモリ洞窟の探検」と称して、キモ試しに入ったものでした。20、30畝も入ると天井が低くなり、頭がつかえるため、不気味になって引き返したものでした。水は、足元をちよろちよろ流れる程度でした。

江戸時代によく掘削したものだと思つて碑文を見ると、工事の関係者に「郡廻り」「代官」など役人の名前がずらりと並び、工事の技術者は「沼田郡祇園（現広島市安佐南区）」の村民の名前が6人。広島藩が出張つての大工事だったことがうかがえます。掘削技術そのものは、江戸の都市開発による大がかりな疎水工事で修得済みだったようです。

こうして灌漑の利便は満ちたものの、貯水については、上野池が高



①上野池の西入口付近に陣取っている「疎鑿（そさく）」の記念碑



②上野池西側にあるホリコ。中央の小さな穴が入口です。手前の手すりのついた石段から降りて行きます



③上野池の北側の堤。かなり高くめぐらされています

地に在るため水源が乏しく、干天が続けば枯渇する恐れがありました。そこで、上野池の上流にある和田池から余分な水を分けてもらおうと隣の新庄村と何度も交渉するのですが、その都度、「仇敵の如く」拒絶されたのでした。1つには、庄原村は広島藩直轄の地で、新庄村は隣の是松、板橋などと共に家老三原浅野氏の領分だったからです。

先の増原氏によると、庄原村には藩主直轄地の領民だとのプライドから、事毎に新庄村を見下げる風潮があり、反感から水利の解決は、明治35(1902)年まで持ち越されたこと、記しています。

この水を引くまでの労苦は、明治期に建てた丑寅神社の参道脇にある2段豊かな「上野疎水碑」が物語っています。

ところで、苦勞して上野池疎水で灌漑を決行した庄原村ですが、農地が決して多くはなく、近郷の村の中でどんな位置にあったのでしょうか。

『永江の庄——』に興味深い記録が載っているので紹介します。

「文政2(1819)年の人口調査表」です。

庄原	戸数四六〇	人口一七四九
川手	一〇四	四一四
宮内	五〇	二八一
大久保	四三	二四〇
永末	四二	一六三
(計 六九九戸		二八四七名)

そして、同年の「農業実体表」です。

庄原	反数一二四町	在高一〇五一石
----	--------	---------

宮内	四八	四四〇
川手	六二	六〇八
大久保	四六	三六八
永末	二三	三八九
(計 三一四町		二八五六石)

庄原は、戸数あたりの人口が多いこと、農地では反当たりの石高が低いことがうかがえます。この場合、「庄原」は現在の市街地全体を指すと思えますが、この傾向は商業地域というのが理由なのでしょうか。

町の変遷は、この50年間でさえ、住宅地が大きく広がっています。以前には、本通り筋を外れると、田んぼや畑が大きく広がっていたとの記憶です。町は、変わっていないように絶えず動いていることを実感します。

今回は「頼杏平は県北に何を残したか」について調べてみます。



当連載の内容に対するご意見(異論も含む)がありましたら、歓迎します。どら書房までご連絡ください。なお、7月号は作者の事情により休載いたします。

まちの古本屋さん
どら書房
古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日(2月は店内整理で全休)
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から) ※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

5. 川原慶賀の植物図

川原慶賀（1786～1862）は通称登与助、慶賀はその号である。川原慶賀は出島出入り絵師で、長崎へ来航するオランダ人へ描いた絵を土産品・記念品として売ることが許されていたいわば職業的な画家であった。父、川原春山に絵を学び、父の親友で唐絵目利（からえめきぎ）の長、荒木元融の子、石崎融思（ゆうし、1765～1846）と親しかったという。

唐絵目利とは長崎奉公直轄の長崎会所に属する職業で、長崎に舶来した書画を鑑定し、価格を決定するばかりでなく、外来の鳥獣葉種を写生し記録する職である。

18歳年長の石崎融思からも得るところがあったであろうが、恐らく石崎融思の推薦で、川原慶賀は出島御絵師となったから、石崎融思をふくむ仲間や多くの先輩から絵の知識を吸収し、出島に行って西欧の絵画も見て、その刺激を受け、画技は進歩していったと考えられる。

1818（文政1）年、商館長ブロンホフの家族を描いた「加比丹（かびたん）并妻子之図」は傑作といわれる程、川原慶賀の腕前は伸びていた。

シーボルトが来日すると、川原慶賀に注目したのは当然で、シーボルトは出島御絵師中、最も優れた画家と評し、多くの植物図を描かせた。

1836（天保7）年、川原慶賀は「慶賀写真草（けいがしやしんぐさ）」を出版する。巻上に忍冬から白頭翁まで草本27種、巻下に木爪より無花果まで木本29種を載せ、図1に見られるように余白に和漢名・ラテン名と解説をつけている。白頭翁の図を見てわかるように図は正確で、花部の描き方は精密で当時の植物図のいずれよりも勝っている。しかし、残念ながら肉筆の生彩など、川原慶賀ならではの表現できない優れた要素が抜けている。これは彫師の腕前の悪さに加えて精巧な植物図を木版で印刷することが不可能であることを物語っている。

川原慶賀は、1825（文政6）年にオランダ商館員として来日し、シーボルトの助手として絵画を担当したフランス人画家、フィレネーフェの指導を受け、ヨーロッパの植物図の技法や花の解剖、そして、その図解を学んでいる。

大場秀章（1996）は、川原慶賀の作品を3期にわけ、〔第一期〕ドゥ・ヴィルヌーブ（フランス語読み、フィレネーフェはオランダ語読みで同一人物）に師事し、指導を受ける前の作品、〔第二期〕ドゥ・ヴィルヌーブの指導に忠実に従っていた時期の作品、〔第三期〕慶賀本来の持ち味とドゥ・ヴィルヌーブからの西欧画の手法が融合した独自の域に達した時期の作品、としている。

そして、『植物画として整っているのは第二期の作品で、「ツルリンドウ」、「シュメイギク」、「アケビ」、「ダンドク」、「ウツギ」が該当する。（中略）

著名と落款をもつ第三期の作品の多くは、画家の構成、葉や花の配置が典型的な西洋とは多少異なる（後略）』と批評している。虎耳草（図2）は無著名・無落款であるから第二期の作品と考えられる。

川原慶賀がスカシユリなど多くの植物図は「日本植物誌 Flora Japonica」の下絵として使われたが、川原慶賀の原図はそのすべてとシーボルトが持ち帰った宇田川榕庵や桂川甫賢の植物画と共にシーボルトの遺族が一括してロシアに売却されたが、それはロシア、サンクト・ペテルブ

虫と草木と人びとと ⑥3

中村慎吾

「植物画とは何か」 —日本の植物図譜を中心に— (7)

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

にあるコマロフ植物研究所に完全に保存されていたので、1994年、丸善から「SIEBOLD'S FLORIGIUM OF JAPANESE PLANTS、日本植物花譜」として出版され、これは落合武夫（1919～？）から庄原市立比和自然科学博物館に寄贈されているので、身近で容易に閲覧することができる。



図1 川原慶賀が描いた白頭翁
(大場秀章「植物学と植物図」による)



図2 虎耳草 (ユキノシタ)
(シーボルト「日本植物花譜」による)



・志賀の海人は藻刈り塩焼き暇(いとま)なみ髪梳(くしら)の小櫛取りも見なくに 石川少郎
この志賀は福岡の志賀島、太宰府の役人として赴任中の少郎は、髪も乱した娘達が、税にする海産

「つれづれ歌談」②④

松岡初枝

持統天皇が伊勢の国に行幸に行った時、随行しなかった人麻呂は想像して詠みます。

・くしろ着く手節(てぶせ)の崎に今日もかも大宮人の玉藻刈るらむ 柿本人麻呂

この手節は腕輪のことで、たま答志(てぶせ)崎で海藻拾いをする女官たちを想って詠みます

が、すぐ近くでは海女が税のために海藻刈りをしています。「腕輪でお洒落した人達がまあ…」

物を得ようと重労働する姿に眼を止めました。都人の少郎は、働く娘の無垢な美に心を動かされたようです。

・多麻川に曝す手作さらさらに何そこの児のここだ愛(かな)しき 東歌

織りあげた布を晒して白く仕上げている娘。脚も頭わに働く彼女「何ていい見なんだよ」。税のため

にひたすら労働するのは男も女も同じで、働く汗に美を見出した歌です。

・鈴が音の早馬駅家(はやめうまや)の堤井の水を給へな妹が直手(ただて)よ 作者不詳

主な道には一定間隔であった駅家、旅人が休んだり水や食料補給をしました。ここでも娘が働いて

いて、若い旅人が「こんな駅家にあなたのような美人がいるとは。あなたの手で直接水を飲ませて

よ」「甘ったれないで！忙しいのよ」、まったく男はしようがないねえ。

千数百年も前の女達の何と逞しい姿でしょうか。ひとりの人間として精一杯働き、生命を輝かせて来たのを知ることができるのも万

葉集ならではの思ひです。

目を見て小さく頷くと、海原さんが会釈を返した。アイコンタクト成立で、海原さんのそばに近づいて、車椅子の手押しハンドルを掴んだ。

「前に移動しますよ」

声掛けして、サイドのパーキングブレーキを外して前進、そのままリクレーションルームの外に出る。

「日光浴に行ってくださいませ」

事務室の中に一声かけた。壁掛けの麦わら帽子を外して、海原さんの禿げ上がった頭に被せた。額から一周するように、脳出血の手術で開頭したときの傷跡が残っている。

玄関のスロープを降りると、眩い五月晴れ。敷地内の外れにある桜の並木に向かった。葉桜になった今の時期には毛虫がつくので、近づく人はあまりいない。

大きな幹の陰に隠れるようにして、車椅子を停めた。玄関の方をうかがって、人影がないのを確かめてから、制服の上着の裾から手を突っ込んで、ポロシャツの胸ポケットからハイライトを取り出した。

海原さんが破顔している。プルプルと震える右手を差し出したが、箱から一本抜きとって、直接口にくわえてもらった。使い捨てライターで火を点けると、深呼吸するように大

きく煙りを吸い込む。タバコの先が真っ赤に燃えて、海原さんが目を閉じて至福の表情を浮かべる。

「はい、そこまで」

タバコを取り上げると、海原さんがうらめしそうな顔をするが、すでにコホコホと小さな咳をしている。閉塞性肺疾患という持病で、タバコは禁止されている。もっとも、この介護施設内は全面禁煙、職員でも喫

たんだろうなという雰囲気があつて、気難しいところもあるので、いつの間にかおれが担当ということになった。

三年前の入所ときは娘さんが手続きをしたが、一度も家族が見舞いに来たことはない。介護施設は、現代の姥捨て山でもある。

「今度入った看護師さん、けっこうかわいいですよね」

世界旅行

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑥9

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

煙は許されない。

吸いかけのタバコを自分でくわえて、煙りをくゆらせる。

(高校のガキの頃から進歩していねえよな)

学校の部室で隠れてタバコを吸っていた。四十代の半ばを過ぎても、同じようなことをしている。

海原さんとは、初対面のときからうまが合った。若い頃はヤンチャだっ

に手を出したつてんで、ボコボコにされて、店もクビになったんです。それでもこりずにその子、ニコルという名前だったんですが、駆け落ちの約束をしたんです。一緒にタイマで逃げるつもりだった。でも、待ちぼうけです。すっぱかされたのか、組のやつらに捕まったのか……。ヤケクソで、ひとりで飛行機に乗りました。航兵さん、バンコクに行ったこと、ありますか？」

海原さんが小さく頷いた。「中華街に、ジュライホテルという安宿があつて、しばらくそこにいました。一泊、五百円もしないんですよ。壁は落書きだらけだし、ゴミブリヤネズミは出てくるし、ひでえホテルだったな。トイレに紙がないんですよ。水の入ったバケツが置いてあつて、左手でケツを拭いて、バケツの水で手を洗って、その水でトイレを洗い流すんです。一応、水洗なんでしょうがね」

海原さんが笑っている。

「でも、住めば都で、日本人もけっこう多くて居心地は良かったな。とにかく物価が安くてね、酒も安いし女も安い。ハシシユも簡単に手に入る。軍資金は乏しかったけど、楽しかったですね」



海原さんが、震える右手で口に何かを入れる動作をした。

「食い物ですか？ 基本、エスニック料理なんで辛いんですよ。でも、中華街なんで、本場の中国料理も食べられます。シナソバなんか十二パーツ、六十円ですからね」

海原さんの笑顔が嬉しくて、つい調子に乗ってしゃべってしまった。

「ただ、暑いのはまいったな。夜になっても三〇度を超えるから、窓を開けておくしかないんですが、バンコクは夜中でもうるさいんです

よ。オートバイや三輪タクシーが、

バリバリ騒音を立てて走り回っている。でも、実家のだだっ広い部屋に寝ていると、あの騒音が懐かしくなります。ここで聞こえてくるのは、牛蛙の鳴き声ぐらいですからね」

海原さんが口を開けて破顔した。笑い声が聞こえてくるようだ。そろそろ時間だと、車椅子のハンドルを掴んだ。

「この前、買った本だけ……」

本が差し出された。「世界貧乏旅行ワールド」のタイトル、一月ほど前に買ってもらった本だ。

「実は、こういう写真をもらってね」手渡された茶封筒の中には、キャビネサイズの写真がたくさん入っている。

「その本に載っている写真と同じな感じで、びっくりしちゃってね」

そう言われて本をめくって確認すると、同じ写真、いや、正確にはキャビネ判の写真をトリミングしたものが本に掲載されている。

「仲の良かった患者さんが亡くなっ

てね。おれに渡してくれと遺言に書いてあったんだ」

「ああ、やっぱり」

本の扉を開いて、カバーの折り込み部分の文字を見せた。「撮影…海原航兵」と印刷されている。

「あちゃー、自分がさも行ったような顔をして、自慢げにしゃべっちゃったよ。でも、こんな偶然、あるんだね」

「いや、偶然ではないですよ。海原さんが施設に入る時に、家族の方が蔵書をうちで処分されたんだと思います」

「それをおれが買ったのか。でも、馬鹿をやったな……」

「嬉しかったんだと思いますよ。こうして写真まで遺してくれたんですから」

「そうだね」
ようやく笑顔を見せた。

「この本も写真も、大切にしよう」
そう言ってから、小さくかぶりを振った。

「実はおれ、一度も海外に行ったことがないんだ。言葉の通じない所なんか、怖くてね」

「わたしもそうですよ。だから、本を読むんです」

参考文献：「12万円で世界を歩く」（下川裕治著、朝日文庫）

FEBC
1566

Listen to His voice

あなたによりこそ

☎180-8790
キリスト放送局 日本FEBC

武蔵野局 郵便私書箱36号
●AMラジオ1566kHz 毎日夜9時30分～10時45分

キリスト放送局
●インターネット放送 www.febcjp.com スマホで聞ける!

日本FEBC行
FEBCは旧新約聖書を神の言葉と信じ、使徒信条を告白する超教派のキリスト放送局。
選りすぐりの20以上の番組を毎日放送。無料聖書通信講座やメールによる相談も。

《PR 広告》
庄原FEBCの会

特別連載⑨

「旧暦」のカレンダーを見る

古川 行洋

三 雑節

雑節とは、日本特有の季節変化や慣習から自然発生的に生まれ、主に農作業に合せた年中行事、民俗行事とし、これらを総称して雑節と呼んでいる。そして、この雑節は一年間の季節の移り変わりを、より適切に

掴むため、二十四節気・五節供などの補助的な役割もしているのである。基本は次の九つである。

節分 彼岸 社日(しゃにち) 十八夜 入梅 半夏生 土用 二百十日 二百二十日

これに稲荷神社の祭りの「初午(はつうま)」、お中元の目安にもなる上元・中元・下元の「三元」、俗にお盆と呼ばれて先祖の霊を祀る「盂蘭盆」、六月末と大晦日に半年の穢れを祓う「大祓(おほはらえ)」を入れる場合もある。

天和(てんな)三(一六八三)年に波川春海が貞享暦を作るにあたり、それまでやたらにあった暦注をかなり整理し、大胆な簡素化をはかった。そして、採用したのが次の十三であった。

天一天上 八專 間日 社日 彼岸 十万暮 土用 八十八夜 入梅 半夏生 三伏(初伏・中伏・末伏) 二百十日 節分

以下、雑節について、項目別に解説しよう。

◇入梅 梅雨の季節に入る最初の日を「入梅」という。入梅の入りを「ツユ入り」といい、終りを「ツユ明け」という。本当は、雨期に入る最初の日を「入梅」と呼ぶが、今日では雨期全体のことを入梅といっている。「ツユ入り」「ツユ明け」宣言は、日本の場合、南北に長いため、全国一斉に宣言は出せない。よって、六月上旬から七月上旬ないし中旬までが入梅の季節であり、その地方地方の気象台で発表されている。

何日から梅雨入りになるかということ、その年の実際の気候と関係があり、早かったり遅かったりしていろんな説があるが、はっきり決まってははいない。

入梅の語源は、ちょうど梅の実が熟する頃に雨期に入るところからきている、という説が強い。この頃はカビが生えやすいので「黴雨(ばいろう)」となり、それから「梅雨」となったという説もある。

入梅中にほとんど雨が降らないことを「カラツユ」といい、水不足になり、稲作にとっては悪い影響をあたえる。また、梅雨の中休みのことを「五月晴れ」といった。

普通のパターンでは、ツユ入りはシトシト雨、後半は驟雨(しゅうう)や豪雨で、ツユ明けは雷が鳴ることが多い。しかし、最近はどうなのか。◇半夏生 旧暦では、夏至から数えて十一日目になる。七十二候の夏至の末候にあたる。半夏生は梅雨の終期にあたり、農民はこの日までに田植えを済ませ、どんな気候不順な年でも、このあとは田植えをしないとこの習慣があった。教えとして、「半夏生の前なら半作とれる」、それは田植えが遅れても、半夏生の前であったら平年作の半分までは収穫できる、といういわれである。

語源の一つは、畑地に生える「カラスビシャク」(別名が半夏)というドクダミ科の多年草の毒草が生える時期であること。もう一つは、仏教で九十日にわたる夏安居(げあんご)の夏の時期に僧侶が一定場所に移住し外出しないで修行する)の中間、四十五日目の称えである。

半夏生の頃には、天から毒気が降るとか、地が陰毒を含んで毒草を生じるなどという言い伝えがあり、筍・ワラビ・野菜を食べること、竹林に入ること、種をまくことを忌む風習があった。



海外旅行ツアー・コンダクター・エピソード⑦

ケニア編3・「頭上の豹と 足元の毒蛇に注意！」 山崎 允まこと

私がケニア共和国への海外添乗旅行のアサインメント（割り当て）を受けたとき、正直、不満だった。それまでは、海外からの国内旅行の案内（インバウンド）経験はあったものの、海外の地理や安全性、一般的な知識等が不足していた。それにも関わらず、アメリカ西海岸などの華やかな観光地に憧れを持っていた。

そのことに気づいていた上司は、「ケニアに行ってみる。案内するものは、はい、象が出ました！ あ、あちらにキリンが出ました！ で済むだろ」。全くその通りで、返す言葉がなかった。それに、英語検定試験「二級」では「10年早い」と言われても仕方がない。身の程をわきまえていない私に「愛のムチ」をいただいたと、今では感謝している。そうなんです、私の最初の海外ツアーコンダクターの仕事は、ケニアだったのです。

さて、そうしてやって来たケニアのサバンナ。見渡す限り平坦な地に、30センチくらいの草が生えてくる6

〜7月が、サファリツアーのベストシーズンだ。象の鼻や、キリンが届くほどの高い木があり、葉っぱは象とキリンの食事処である。木陰にはライオンたちがよく寝そべっている。世界には樹木のまばらな地形の「サバンナ」が多くある。ケニアであれ



ばマサイマラ国立保護区、野生動物専用（？）の「屋外居住区域」。ここでの気候は、一年を通して乾季と雨季に分かれている。乾季になる6月から10月が、新緑の植物を求めて野生動物の動きも活発になる。

突然ドライバーが「シート！」と口元に指を立てた。数百メートル先にインパラの群れが草を食んでいる平和な光景、でもドライバーの指さす方向には周囲の色と違った物体が少しずつ匍匐前進を繰り返している。タイミングが良ければこのようにライオンの狩りに出会える。数キロ先まで裸眼のまま見通すことが出来るライオン、そしてドライバーたちの視力の良さに感服する。ここでは眼科のクリニックは不要である。

ドライバーたちも、客にビッグファイブ（象、ライオン、バッファロー、クロサイ、豹）を見せてあげようとして一生懸命だ。ツアーの終わりに「グッド・ジョブ！」と言ってお客さんから帽子に集めたチップをドライバーに渡したのが、つい先日のことのように蘇ってくる。

サバンナのはるか先には、360度の横一線にぼやけた黒っぽいシャドウ。昔信じられていたという「地球平面説」を想起、夏に泳いでいた

房総沖の「水平線」と、ケニアのサバンナの「地平線」が重なった。

ドライバーがはるか先を歩く2頭のライオンを指さした。「あの2頭はハネムーン中だ」、そして驚くべき説明をしてくれた。「彼らのハネムーンは2、3日かかる。その間20分おきにセックス（交尾）を繰り返すのだ」と。「オー、マイゴッド！」と同行する外国人が叫んだ。

サファリツアーでは、注意事項がいくつかある。通常は車から降りることはないが、万一降りなければならぬときは足元に十分注意すること（ウオッチ・ユア・ステップ！）。猛毒を持った「ブラックマンバ」という毒蛇がいるからだ。外観は白いのに、口の中が真っ黒のためにこんな名前がついているらしい。

木陰で休む時は頭上注意（ウオッチ・ユア・ヘッド！）、豹が獲物をぶら下げ昼寝中のあるからと説明を受けた。余談だが、サファリ中の小用の場合、婦人の場合は2枚のブランケットで取り囲んで用を足してもらおう。男性の場合は「インターナショナル」なやり方でどうぞとのこと。でも、足元の「ブラックマンバ」に注意！

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

病棟に消灯時間五月闇

近藤 昌平

影さえも風に吹かれて夏落葉

富久光

古里の潮待ち港初夏の海

片岡 正人

郭公の声が水田を渡り来る

隆愚

櫻蕊降る四代通ひし小学校

大槇 三代子

葉桜やどこ吹く風の便りかな

赤川 冬人

万緑の日々に広ぐるはつ夏に

松岡 初枝

旅ゆ還らぬあまたの命

投稿&寄稿

候のことば

「和風月名」

隆愚

先月に続き「和風月名」の一口メモです。

◎三月 弥生（やよい）…「弥」は「いよいよ」という意味。「弥生」には、

草木がいよいよ生い茂るという意味があります。
◎四月 卯月（うづき）…空木（うつぎ）の花である「卯の花」が咲く季節だからという説と、田んぼに稲を植える「植月」が転じたという説があります。

◎五月 皐月（さつき）…田植えが盛んに行われ、早苗を植える月という

意味。

◎六月 水無月（みなづき）…梅雨が終わり、水が涸れつきるといふことで「水無月」という説と、田んぼに水を張る「水張り月」や「水の月」という説があります。

◎七月 文月（ふみづき）…七夕に書の上達を祈る「文上げ月」が由来とする説が一般的。稲穂がふくらむ時期であることから「穂見月」「穂含み月」などの説も有力です。

「草刈り」

赤川 仁洋

草刈り機のスロットルワイヤーを引く時がいちばん緊張する。かなり



のロートルなので、なかなか点火しない。五回目にしてようやくエンジンが始動、やれやれだ。

梅雨前と晩秋の年二回が定番。西本町にかなり広い土地を所有している、父親が元気なときは野菜を作っていたが、今は放置しているので雑草が生い茂っている。丈の高い種類も多く、茎が木のように頑丈になる草もある。

例えばイタドリ、スカンポと呼んでいた。子供の頃に、幹の皮を剥いで齧っていた。すっぱくて、うまくはないが、喉の渇きや空腹感をいつとき忘れさせてくれる。

漢字では虎杖と書く。茎が虎斑模様で大きくなると軽くて丈夫な杖としても使える、ということらしい。日本の固有種だが、シーボルトによって観葉植物としてイギリスを持ち込まれて大繁殖、アスファルトやコンクリートも突き破る「悪魔の植物」として嫌悪されている。

地域によっては山菜として食用されたり、薬効成分もあるらしいのだが、今は憎き雑草の一群、問答無用で回転刃を振るって成敗！しかし、雑草の生命力にはタジタジで、腰痛と共に毎年分が悪くなるばかりである。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

● 一 硬式テニス参加者募集 一

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

・ 火曜日 (9:30 ~ 12:00)

・ 水曜日 (9:30 ~ 12:00)

・ 土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。

掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

九日市「リサイクル市」出店者募集中!

10月9日(日)の九日市において、フリマ形式のリサイクル市を
開催する予定です。

ご家庭にある不要品を販売してみませんか?

あなたにとっては不要でも、探している人がいるかもしれません。

出店料は無料です!

※スペースが限られているので、大型の商品はご遠慮ください。

搬入搬出は自己責任でお願いします。

申込先：九日市愛好会事務局 (☎0824-72-8285)



気軽に地域について話し、仲間の輪を広げよう



主催：「庄原を想う会」(代表：柳井妙子)

第1回テーマ「庄原の文化、伝統を守りながら、まちの活性化を考えよう!!」

講師：寺岡隆行(九日市愛好会顧問)

日時：令和4年6月25日(土) 9:30 ~ 11:30

会場：生活交流館1 (JR 備後庄原駅隣接)

参加費：500円(学生200円、お茶菓子・講師謝礼込)

連絡先：080-3631-9125(やない) shobara.omou@gmail.com

※参加希望者は、コロナ禍で会場変更の可能性がありますので要予約(電話かメール)。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇芸備線ストロール、定休日には取材に行けないので、当日の天気が気になります。雨の中を歩くのは憂鬱ですからね。今回は快晴でした!

◇コロナ禍で中止になっていたイベントも徐々に復活しています。しかし、町中には休店&閉店した店舗も目につきます。かろうじて踏ん張っていた経営が、コロナでとどめを刺された……。コロナ後が大変(大事?)なのでしょうね。

◇五月に入ってすっきりしない天気が続いていたのですが、後半になって快晴続き、気温もぐんぐん上昇。梅雨寒に備えてコタツをまだしまっていないのですが、悩ましいですね。

しょうばらくんちいち 「庄原九日市」

令和 4 年 6 月 9 日 (木) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

6月8日(水)~6月10日(金) 10:00~15:00

パッチワークキルト展

★どら書房→休憩所あります!!

月曜日と火曜日はお休み

但し、九日市の日には営業します。

★楽笑座「まかない食堂」中止

「うた声喫茶」開催 13:30~15:00

★さくや→総菜とお寿司の店頭サービス!!

★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!

★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き

九日市特製ピタサンド600円

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

出店配置図



出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円~ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

